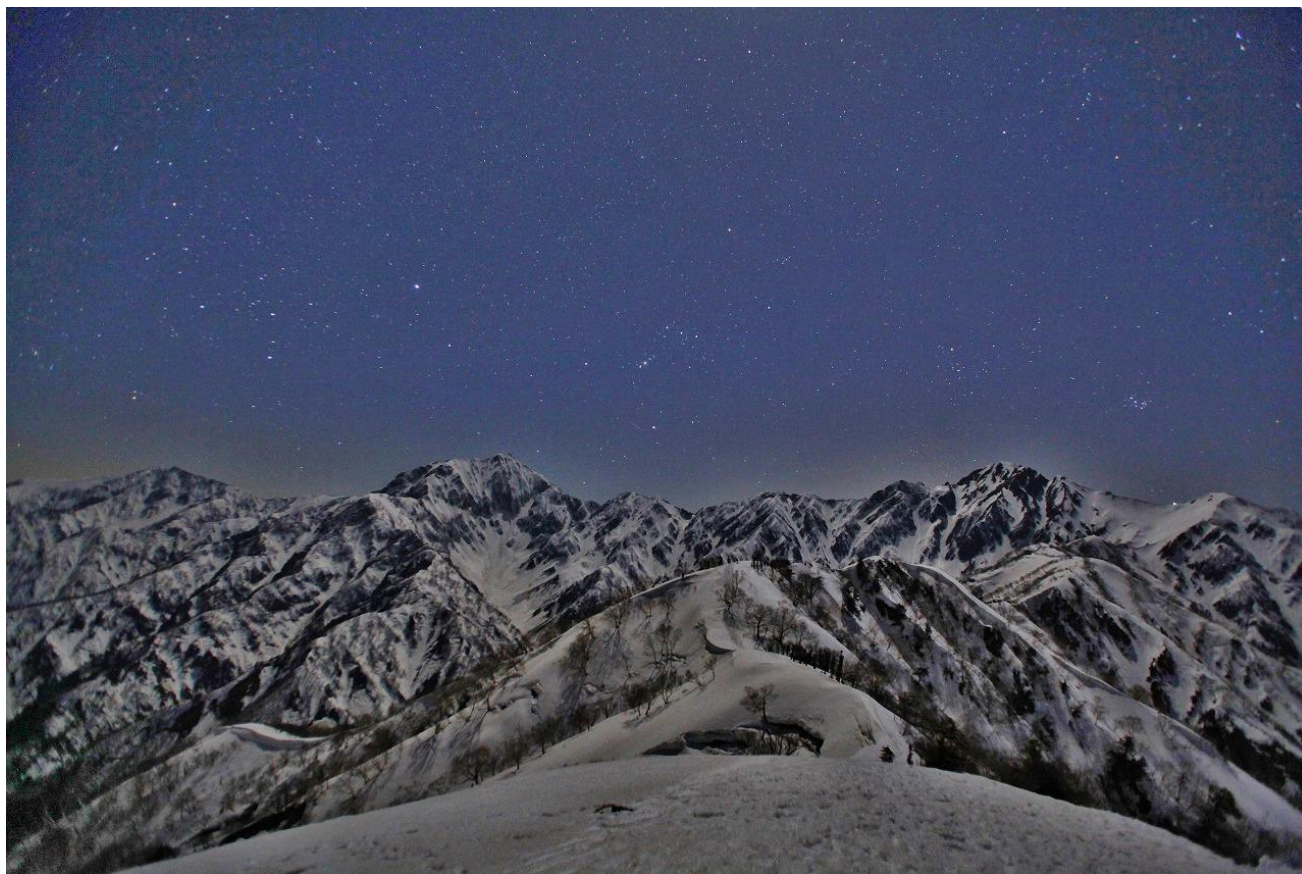


山岳友の会会報

2026年1月 第57号



後立山星夜 小遠見 撮影：荻野 秀夫

も く じ

年頭のご挨拶	会長 山口 孝	2
第75回現地研修会(蝶ヶ岳・常念岳)	報告1 西尾 治	2
	報告2 高橋 里彰	5
	報告3 小林 久雄	6
明神養魚池メンテナンス(25.10.25-26)	報告 小林 久雄	6



友の会の皆様 新年明けましておめでとうございます

昨年は夏山シーズンに3日間で800mmの降雨量があり、横尾⇄本谷橋の道が大水で流失する被害となりました。私の記憶では、過去このような大雨はありませんでした。お天気の神様に本年はおだやかな天候をお願いしたいと念じております。

今シーズンも友の会の皆様と、多くの楽しい山旅？山行？を期待しております。

※2月14日(土) 13:30~15:30 あがたの森文化会館で、山口 孝が「山小屋番からのメッセージ」という内容でお話を致します。どうぞお気軽にお出かけ下さい。



第76回現地研修会

「蝶ヶ岳と常念岳」報告 その1

西尾 治

8月26日(火曜日)から8月28日(木曜日)の2泊3日で総勢10名参加の研修が行われました。

7時30分指定の“ほりでーゆ四季の里”駐車場から少し外れた林道ゲート入口の空き地に自家用車を止め、3台の車に分乗し、三俣登山口に移動。

予定より10分早く8時20分に登山開始。この時点では、みんなパワー100%。

8時50分にはゴジラの木に到着。引き続き高い気温と湿度に悩まされながら、整備された階段を登りやっと“まめうち平”。小林久雄さんの「あともう少し」という言葉を何回も聞きながらその都度、曲がった先にある階段にため息をつき、減るのは、体力と気力に持ってきた水ばかり。



そしてやっと樹林帯を抜け切り、14:00 先頭組が蝶ヶ岳山頂到着。記念撮影のためみんなの到着を待つも、頂上より乾いたのどを潤す誘惑にまけたのか呼ぶ声にも気づかずヒュッテに向かうひと。結局ここでの記念撮影は、6人だけ。残念なことに、槍穂高連峰の稜線には雲がかかり絶景を望むことができませんでした。

ヒュッテ到着後は、さっそくビールで乾杯。8月末でもヒュッテは大賑わい。女性のお客さんのほうが多かったです。女性オーナーとしての故圭子さん、そしてそれを引き

き継いでいる梢さんの女性ならではの気づかいが女性人気の的となっているのでしょうか。そんな中、オジサンたちは、ひとり登山の女性を相手に談笑かと思えば、元気なおばさんを相手に、今日もビールが進んでいました。それでも今日は、この混雑。身内の酒宴は控えめに、晴れない霧に包まれながら、「もう少し静かにしゃべってください！」なんて、まだ消灯時間前なのに何で言われなければならない筋合いなのか不満を持ちながらも明日の縦走に備え、みんな床に就いたのであります。夜中、屋根に打ち付ける雨音と、強い風の音に、「あー明日は、雨の中か・・・」と夢うつつにうとうとすれば、まだ明かりがつく4時前には、出発準備のごそごそ音。昨夜のひとこと何だった？

しばらくして外は明るくなったものの、霧は晴れず、風も強く、このため出発をためらう登山客が何組かいました。我々の出発は、7 時予定。風が収まるのを期待しながら、ヒュッテご自慢の手作りの味噌を使った味噌汁で美味しい朝食をいただき、宿泊客としては遅立ちの我々は、小屋前で元気なうちに記念撮影。梢さんは残念なことに不在でしたが、楓さんにお出ましいただき、今回もみんないい顔でした。

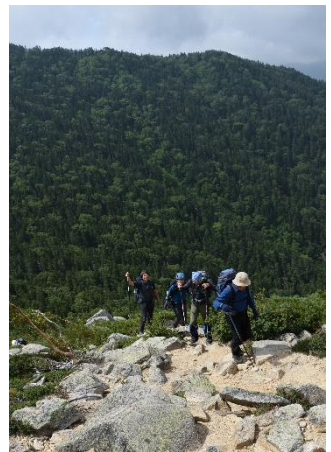


出発するときには、近くの霧はほとんど消えていたものの、穂高から槍への稜線パノラマは雲に隠れていました。昨日は、鳴き声が聞こえたもののその姿を見ることができなかったライチョウの家族に歩き始めて 20 分ほどで会えました。今日の天気です空からの天敵の心配もないのか、餌をついばんでいました。残念なことは、大パノラマを背景に、餌をついばむ姿を写真に収めなかったのですが、ちょっと条件が悪かったようです。そのあとも、ガンコウランを頼りにどこかいらないかとカメラを片手に進みましたが、これ以上姿を見ることができませんでした。

先発組は、蝶ヶ槍に 7 時 40 分前には到着。その後いくつかのピークを上り下りしていると陽ざしも時折あたり、視界もだいぶ広がってきていたので、今度は、先行して楽しそうに登る姿を上から記録しました。この時点ではまだまだ元気そうな顔。いよいよ始まる急登の登り口では小休止ならぬ、ヒュッテで用意してもらった昼食のパンで腹ごしらえ。お昼のお弁当は、ご飯ものかと思っていましたが、この暑い時期、食中毒の心配もあり、洋風弁当(パン、ソーセージ、一口チーズ、ナッツ、紙パックジュース等々)になっているとのこと。ソーセージ、一口チーズ、ナッツには紙パックジュースではなく、缶ビールだったら・・・なんて思ったのは私だけだったでしょうか。

(お酒に弱い私は飲酒運転ならぬ飲酒登山はしませんが・・・。)

いよいよこれから岩場の急坂。昨日のあの蒸し暑かった樹林帯に比べ、やっぱり岩場の登攀は楽しかったですね。12 時半に常念岳山頂制覇。空



もだいぶ暗くなりはじめ、雨粒がポツン、ポツン。カメラが濡れることなどお構いなしに、記念撮影のリクエスト。全員がそろわないものの、大慌てで記念撮影後、小林さんは後発隊の到着を待つ一方、先発組は大慌てで、常念小屋に向け下山開始。まだ、頂上の域を出ないうちに雨が降り出し、雨合羽の上着は来ていたものの、ズボンを履かずとも小屋に着くまでは大丈夫だろうと安易な考えが大間違い。西寄りの風とともに雨足で下半身はずぶぬれ。雷鳴が聞こえ、身を隠す場所もなく猛ダッシュで小屋に飛び込みました。私と大見さんは、小屋到着が早いほうだったので、まだ空いていた乾燥室で着替え、ザックや靴まですべて、熱風の近くを陣取り乾かしました。しばらくするとほかの登山者も次々に到着。乾燥室は、足の踏み場もないほど衣類がつり下がりました。



午後 2 時半には、雨も上がり西の稜線には、槍の穂先が姿を現し、夕方には槍の肩に沈む夕日を見ることができました。こんなロマンチックな風景でも、雄太さんを交えジョッキの生ビール

は進み、びしょ濡れになったにもかかわらずいつもの友の会の日常が、常念小屋にもありました。

今宵の夕食は野菜も多めのハンバーグ。そして話題に上がったのは、おかずのプレート。蝶ヶ岳ヒュッテのプレートは、仕切りがないが、常念小屋は仕切りがある。涸沢ヒュッテもあるが、結構洗う時面倒。女性スタッフが多い蝶ヶ岳ヒュッテのこだわりかなと・・・(小林さん談)。食事後も、バーで談笑は続きました。



かくいう私は、夕焼け空、北穂小屋の上の三日月に見とれながら、あの重いカメラを持っていても、スマホで撮っている人のほうがきれいな写真が撮れているのを羨ましがりながら、一人外に出て、満天の星と、常念にかかる天の川や安曇野の夜景にチャレンジしていました。

家に帰って、撮影した画像を見ると肉眼では認識することができなかった人工衛星が結構写っており、夜空を眺めながら...なんてロマンチックなことを言えない光害が現実味を帯びていることを悲しく思いました。

いよいよ3日目の下山日。天気は上々です。7時恒例の小屋前記念撮影のあと出発。当初予定していた前常念へのトラバースコースは、意外と大変で時間短縮にならないということで、常念に登り返し、分岐から前常念に下りました。



私は、前日常念の頂上からの眺望が望めなかったことから、頂上まで足を延ばし富士山、南アルプス、槍穂高、立山剣、上越の山々、美ヶ原八ヶ岳の360度の展望を堪能してきました。頂上の岩の傍らに咲くイワギキョウが印象的でした。

分岐付近では、ライチョウが姿を現していたとのことでしたが、山頂に行っていたため、青空に槍の稜線をバックにハイマツを歩くライチョウはいい構図になったと思いますが、写真

が撮れず残念でした。

前常念コースは、初めてのコースでしたが、下界から見る稜線歩いてみて眺望の良さに感動したものの、思った以上に距離がありもしこれを登りに使ったら大変だつくづく感じたものでした。

午後1時半に三俣到着。まだ、全員が到着していませんでしたが、用事のあった大見さんと二人先に帰宅の途につきました。皆さん、お疲れさまでした。



蝶ヶ岳ヒュッテでは、ビールそしてここでしか飲めなかった槍穂クラフトを御相伴に預かり、常念小屋でもビールやお酒のおもてなし、梢さん、雄太さんお世話になりありがとうございました。まだまだ若いお二人、山小屋のご主人としてのご活躍を祈念いたします。そして、みんなバテないようにサプリメントの配給、的確な道案内の小林久雄さんありがとうございました。

第 76 回現地研修会

「蝶ヶ岳と常念岳」報告 その 2

高橋 里彰

レポートらしいレポートは他のお二人がお書きになると思うので、私は例の如くざっくばらんに書きちゃいます。

帰宅早々の高橋：

「げっ、1.5 キロも増えてしまった！これでもかと動いた 3 日間だったのにー。」大量のビール・日本酒・ウイスキー以外に原因は考えられません。梢ちゃん雄太君ありがとうございました。サントリーレッドにクロモジの枝を浸したやつ、なかなかのものでした。

これまで高橋は、三股～蝶は 2 回、蝶～常念間の縦走は、もう 20 年以上前に 4 回（たしか）経験しておりますが、最終日の常念小屋～三股は初めてのルートでした。

初日の蝶までの階段の洗礼は 3 年前に受けていて、左程でもありませんでした。ただ 4 回もタオルがたっぷり絞れる多量の汗の体験は初めて。ビールががんがんいっちゃいました。

2 日目の常念小屋までのルートが、過去に辛いと感じた記憶は皆無であるにも拘わらず、多少辛く感じられたのは、あくまで常念岳頂上付近で本格化した強風雨の為だと思います。ジグザグを西に向かって降りる時、片足になるとバランスを失くしそうになる強風と礫の如く顔を攻撃する雨粒でありました。

常念小屋～三股は・・・これは若干キツかったかも知れません。

他のルートに例えますと、あくまで高橋の感覚ですが、小屋～前常念分岐が涸沢のモルゲンロード（ヒュッテから行くパノラマコースの、小屋合流点からザイテン取り付きまで）の 15 倍、分岐～前常念が西鎌尾根、前常念から樹林帯までの花崗岩の下りが、整備されていないザイテングラードの 1.5 倍、樹林帯の下りが、妖精の池から徳澤までの長堀山といったところでしょうか。これで B ランクだなんて「信州 山のグレーディング」ふざけてます。「日本アルプス登山ルートガイド」なるどうも個人が書いているらしい案内は、難易度 1/5「昭文社の地図のコースタイムは、三股登山口から常念岳山頂まで 7 時間とあります。しかし、実際に登って見ると 4 時間 30 分（休憩時間は除く）ほどで到着しました。昭文社の地図はかなり甘く書かれているようです。」などとほざきおって首を絞めたくります。恐らく筆者が登ったのはコロナ前、ルート整備の行き届いていた時でしょう（フン）。

同行の方々とアミノバイタルのお蔭でなんとか歩き切りました。（アミバイのグレープフルーツ味ははっきり言って不味いです。メンバー全員一致の意見です。）いつも後ろを振り向きもせずさっさと行ってしまうリーダー（久雄ちゃん！）が、終点まで 10 分弱の辺りで水を持って待っていていた姿には、感動の余りそれまでの不平不満を忘れてしまいました。ぎり最後に好印象を持ってくるあたりなかなかの手練れです。

メンバーは皆さん健脚でした。熊さんはあのお腹ですが、高橋一度も先行できませんでした。西尾さんは高く重いカメラ（三脚も）を提げながら先行してメンバーの撮影。沢山 GROUP LINE にアップされた山行中の写真を見ると、皆さん晴れ晴れしい笑顔に写っていますが、あれ

は撮りますよ～の気配や合図に反応したもので、自然体を日頃心掛けている私の表情が厳しいのとは事情が異なります。

などと強がって書きましたが、やはり後期高齢者です。眠りは途中で目が覚める、固有名詞が出て来ない（ほらアレ、アレ）、足の小指をぶつける、傷がなかなか治らない、治っても痕になる等々。集団登山は小学校 4 年の雄山（富山県人以外は立山と云う）だけ。自分には不向きと思っていましたが、今回はしみじみメンバーの有り難味を感じた高橋であります。

いや～山の仲間と酒を飲むのは楽しいな～。下山後 3 日目でもた山に行きたくなりました。人間辛い体験は忘却する様うまい具合に按配されているのだとか。アレレ、蝶～常念縦走に辛い記憶がないのもそのせいかな。

第 76 回現地研修会 「蝶ヶ岳と常念岳」報告 その 3

小林 久雄

10 名の高齢者集団が挑戦した。8 : 20 三股出発、まめうち平で一汗、最終ベンチからはカラ元気で一息に蝶ヶ岳山頂。一日目無事終了。

7 : 00 出発し、雷鳥家族に対面し、蝶槍を超え、愉しく常念をカラ元気で一息に山頂。折しも前線通過で雨風に遭遇した。常念小屋 14 : 00 無事到着。

雄太さんに生ビールいただき、夕餉には冷えた七笑で愉しく語りました。

最終日、前常念からの下りでは少し疲れたけど無事に三股に戻りました。お疲れ様でした。

明神養魚池メンテナンス（25.10.25-26）報告

小林 久雄

10 月 25、26 日、少し少ない人数でしたが、上高地ステーションの養魚場のメンテナンスを行いました。能登沖の低気圧で暖気が入ったので寒さも少し和らぎ、雨が心配されましたが、



16 時まで降られずにできました。池は枝や落ち葉が多かったので、水を払って綺麗にしました。

囲炉裏で燗作りして、今夜のメーンは『マグロの鎌焼き』。静岡から小石ドクターがたくさん仕入れていただき美味しく頂きましたよ。牛舌やカルビーも焼きましたが……マグロの美味しさにはかてません。竹原さんも降り出した雨の中、駆け付けて。小石、田下、荻野、小林の 5 人は、雨音の中、夕べの団らんを愉しみました。

信州大学山岳友の会会報 第 57 号

発行日：2026 年 1 月 7 日 発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学山岳友の会事務局

TEL：0263-37-3332 FAX：0263-37-2438 E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp